

## 第32番札所 高田（十一面）観音堂

69番札所から次

うな堂が2つ並んだ珍しい

構造をしています。向かつ

て左が篠栗四国の札所で、

施主 柳地次吉

辛未

の32番札所へ向う

て左が糟屋郡三十三觀音靈場

糟屋郡三十三觀音靈場

から「慈眼堂」とされること

世音菩薩の裏には、

文化八年

道を歩くと、あち

こちに小さな祠

1番札所として久山や須

地元では「火除け觀音」とも呼んでいます。堂が火

の銘があり、「南無馬頭觀

がります。中に

は壁をくり抜いた

惠、志免、宇美など旧表粕

焼をまぬがれたことや、な

弘化四年丁未 高田村

篠栗四國の札所で、

（郡中札）の第10番札所で

屋郡を巡る旅です。

世音菩薩の裏には、

十月吉祥鳥 養育方治内

祠もあり、高田の

人々がいかに神仏

33か所のうち8か所

焼をまぬがれたことや、な

ぞれ1811年、1847

を敬っているかがわかりま

す。

が篠栗町内にあります。

いたなど、不思議なことが

あります。

神仏や先祖、精霊といっ

た目に見えない存在を大切

する気持ちは、愛情や信

ぜか觀音像が裏の林へ出て

あつたのでついた名前だと

頼、人と人との絆など、や

はり目に見えないものを大

事になつたとき、周囲が類

一方の篠栗札所の本尊

も前の遺産が、ごく身近に

切にする心をはぐくんでい

ます。

靈場の札所としての

は、長澤熊吉さんが発起人

も前のことから、それ

るのでしょうか。

さて、32番札所は同じよ

1798年の『筑前国続風土記附録』に

は、高田村の項に「觀

音堂ムラカミ」と書いてあ

ります。1861年の『筑

前国続風土記拾遺』には「村

上壽行菴」と書かれました。

ところで、境内には古い

石塔も残っています。「三

界万靈塔」の裏面には、



ています。

さて、32番札所は同じよ

も森部さんが世話をとなつ

たものです。境内の十三仏

藤太郎さんら11人が世話を

となつて昭和7年に奉納し

たものです。

慶應義塾大学非常勤講師

中山 和久

日仏共同篠栗民俗調査団